

週報 第3288回

会 長 渡辺 万寿 副会長 瀧谷 達
幹 事 根尾 玲子 SAA 中田 広宣

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日12:30~13:30

Izumiotu Rotary Club
泉大津ロータリークラブ



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotu-rc.org
ホームページ http://izumiotu-rc.org



今週の例会 (2025年4月25日) 第3288回

■ プログラム

卓話担当 根尾 玲子 会員
「万博ID登録勉強会について」
今井 康隆 親睦活動委員

■ 次週のプログラム

5月2日: 定款の規定により例会休会

■ 今後の予定

・5月9日: クラブフォーラム
杉本 憲一 会長エレクト

■ 祝 誕生日

渡辺 万寿(27日)

■ 今月のロータリーソング

手に手つないで

今月の歌

おぼろ月夜

菜の花畑に 入日うすれ
見わたす山の端 かすみ深し
春風そよ吹く 空を見れば
夕月かかりて においあわし

■ 先週の例会



会長の時間 渡辺 万寿 会長

エジソン

「母と過ごした時間はけっして長くはありませんでしたが、母がああいう人でなかったら、私はぐれていたかもしれません」

世界の発明王・エジソンは、晩年のインタビューで、こう語っている。

エジソンは、白熱電球や蓄音機、映画、謄写版、アルカリ蓄電池などを次々に発明し、生涯に千二百余りの特許を取得している。「ぐれていたかもしれない」子供を、偉大な発明家に育て上げた母親とは、どんな人であったのだろうか。

少年時代のエジソンは、好奇心が強く、いつも「バカげた質問」ばかりしていたという。父親はうんざりしていたが、母親は忍耐強く答えていた。

「お母さん、ガチョウは、なぜ卵の上に座るの？」

「温めてやるためよ」

「なぜ、温めるの？」

「卵をかえすためなのよ」

「卵をかえすってなあに？」

「ガチョウの子供を、殻の中から出してやることよ。ガチョウは、そうして生まれるのよ」

「それじゃ、卵をあったかくしておいたら、ガチョウの子供は生まれてくる？」

「そうよ」

その日の午後、エジソンの姿が見えなくなった。家族で、あちこち探し回ると、隣の家納屋にいたことが分かった。なんと、ガチョウやニワトリの卵をいっぱい集めて巣を作り、うずくまって温めていたという。

この程度ならいいが、「火が、どんなことをするか、見たい」と言って、納屋の中で、小さな火をつけた。だが誤って、全焼させてしまったこともある。

八歳で小学校へ入った。しかし、彼には学校の授業が合わなかった。興味のわからないものを無理に強いられることに、拒否反応を示したのだ。

後年、彼は、次のように言っている。

「わたしは学校ではどうもうまくいかなかった。クラスでいつもびりだった。先生たちはわたしのことを解ってくれないし、父はわたしをばかだと思っているのだ、とわたしはいつも感じていた」

学校に通い始めて三カ月ほどたった時、校長が、エジソンを指して、

「あいつの頭は腐っている」と言ったのを耳にした。彼は、怒って教室を飛び出して家に帰り、「もう学校へ行かない」と言い出した。

翌朝、母親は、子供と一緒に校長のところへ行き、激しく抗議した。母は、わが子の能力が低いとは夢にも思っていない。激論の末、息子を退学させ、自分の手で教育すると宣言したのである。

母は、朝の仕事がすむと、エジソンに読み書きと算数を教える毎日が始まった。やがてエジソンの興味が、科学に向いていることに気付いた母は、初等物理の本を与えた。その中には、家庭でできる科学実験が図入

りで説明されている。彼は、夢中になって取り組み、掲載されている実験をすべてやり遂げた。

十歳になると、科学への情熱も高まり、あらゆる化学薬品を集めてビンに入れ、自分の部屋の棚に並べた。小遣いは全部、化学薬品や金属板や針金の購入に使っていた。

実験中に、自分の部屋で爆発を起こす騒ぎもあったが、母だけがエジソンを理解し、彼の性質が向く方へ押し出してくれた。

十二歳になった彼は、貧しい家計を救うために、列車の中で新聞を売る仕事を始めた。列車は、ポートヒューロンとデトロイトの間を、一日に一往復する。早朝に家を出て、深夜に帰宅する毎日。折り返し駅のデトロイトでは、日中の待ち時間をフル活用している。彼は、図書館へ通い、館内の本を一冊残らず読んだ。学校嫌いの彼が、大きく変身している。また、車掌の許可を得て、列車内に実験道具を持ち込み、停車中に研究を続けた。

ここで、エジソンに新たな苦難が訪れる。耳が聞こえなくなってしまったのである。幼い時の熱病の後遺症が悪化したのだ。貧乏な家に生まれ、学校も三カ月で退学し、今また、体の不自由に直面してしまった。

しかし、彼は、いかなるハンデも乗り越えて、自分の夢を実現していく。

人はエジソンを“天才”と呼んだ。彼は、これを好まず、「天才とは、99パーセントの努力と、1パーセントのひらめきである」と言っている。

人知れぬ努力の結晶が、彼の生み出した発明であったのだ。

晩年に、エジソンは、こう語っている。

「今日(こんにち)の私があるのは母のおかげです。母はとても誠実で、私を信頼してくれていましたから、私はこの人のために生きようと思いました。この人だけががっかりさせるわけにはいけないと思ったのです」

母親の大きな愛情は、いかなる苦難をも乗り越える勇気を、子供に与えるのである。

幹事報告

根尾 玲子 幹事

なし

委員会報告

○皆様のメールボックスに、万博 ID 登録勉強会のご案内を入れさせて頂きました。4月25日（金）の卓話の時間を使いまして、万博 ID 登録勉強会を開催させて頂きたいと思っております。まず、万博 ID、パスワードを注意事項に従って決めて来てもらいたいと思います。当日は、前のスクリーンにスマホの画面を映しながらする予定になっておりますので、よろしくお願い致します。

○明後日の4月20日（日）は、西宮の宮水の郷と酒蔵巡りウォークという事で14名の方が参加されます。泉大津から参加の方は、9時50分に泉大津駅改札前に集合です。

（細川 嘉則 親睦活動委員長）

■ ビジター

名誉会員 藤原 重行 様

■ 出席報告 会員数42名 出席免除1名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
4/18	34名	8名	—	80.95%
4/4	33名	9名	3名	85.71%

■ メークアップ

榎本(4/10 ワールド大阪ロータリーEクラブ)

藤野(4/18 社会奉仕・会報IT合同委員会)

細川(4/11 親睦活動委員会)

■ ニコニコ箱

- ・父 暲郎の通夜・葬儀ご参列の御礼(松内)
- ・本日 宜しく願います(藤原名誉会員)
- ・藤原重行名誉会員様、本日の卓話宜しく願致します(渡辺)
- ・藤原重行名誉会員様、本日はお越し頂き有難うございます。本日の卓話よろしく願致します(根尾)
- ・本日 藤原重行様、卓話よろしく願致します(中田)
- ・藤原さん、今日は楽しんでください(高寺)
- ・名誉会員藤原様、卓話よろしく願致します
(原(正))
- ・藤原様、本日宜しく願致します(藤野)
- ・欠席のおわび(川崎)

ニコニコ箱合計	33,000円
累計	750,500円

先週のプログラム ▶ 卓話



名誉会員 藤原 重行 様

『豊かな人生を送るには!』

私の入会のきっかけは、40周年の時でした。周年の年でしたので、会員増強にはかなり力を入れられていたと思います。オリエンテーションは、和田さん・瓦谷さん・私の3人で受けました。その当時のオリエンテーションでは、定例会は休まないように。年間の予定が決まっている組織なので、休むのは仕事ができない証拠(段取りが出来ない)だとも暗黙に言われました。また休んだら、メークアップは必ずしなさいと強く言われました。

お陰を持ちまして、28年在籍させて頂き1212回の例会を皆勤(MK含む)することができました。

当地区や日本のロータリーが、一番会員数が多かった時代(1997年前後)でした。

その当時の 地区の会員数が現在の倍位であった様に思います。

当クラブも会員数が90名近くおられましたので、毎回の例会で名前を聞かれました。名前を覚えて頂けないと思っていましたが、今思うには新入会員との会話するネタを与えて頂いたと、先輩に感謝する次第であります。

在籍期間の半分以上地区へ出向させて頂きました。地区への出向は、入会3年目当時の木野会長が小島パストガバナーにご依頼して頂きさせて頂きました。ロータリーはプログラムが多い組織です。(社会奉仕・職業奉仕・米山・・・)

その当時、当クラブの中島・小島両パストガバナーがロータリー財団の担当でありましたし、2640地区は教育的プログラムに特化していました。

財団には数委員会がありますが、その中で奨学金委員会に配属されました。そこは奨学生を選定する委員会です。初めて地区奨学金会議があり、天王寺の都ホテルに行きましたが、奨学生の選定なので大学の先生が多く、名刺交換すると〇〇大学〇〇博士・・・びっくりしました！ 偉いところに来たなあと(笑)会議の後には反省会と称して飲み会があり、数回の会議・飲み会に参加すると、先生方の人となり解り、大変楽しい時や時期を過ごすことができました。

ただ一つ、和歌山での開催が多かったので、いつも帰りは11時頃になりました。

地区の委員会の在籍は3年と決められていましたので、その後、学友委員会の担当になり、留学後の奨学生(学友)のお世話をしていました。各クラブへ学友の卓話依頼や日程調整等の設営を行っていました。

学友担当が長かったので、50近いクラブに学友と共に訪問しました。

ロータリーに入会させて頂き、大きな経験としては48歳の時にガバナー輩出クラブとして、地区大会を催した時のクラブ幹事させて頂いた事が大きな思い出です。

また関西の4地区が世界大会のホストを行った時に、地区の財団学友委員長をさせて頂いておりまして、1週間位だったと思いますが、毎日中之島のリーガロイヤルホテルに通った事も大きな思い出として残っ

ております。

50周年の時に、松内会長、木野実行委員長の下、副実行委員長を拝命した、式典、記念事業、記念誌などの事業や作成等に関わったことも、大きな財産になりました。

家庭集会等で中島治一郎先生が「利己と利他」のお話をお教え頂いたことが、人生の新たな起点となったように思います。 利他の心とは、「自分のことよりも他人の幸福を願う心」という意味の言葉です。 そのことを思い、今まで生業や生活を送ってきたつもりですが、今で自らの目指した自己実現への大きな道に繋がった様に思っております。

また人間全て、人生では何かの縁で繋がっていると思います。

良縁・悪縁・腐れ縁などがありますが、ロータリーでは多くは良縁を得たと私は思っております。今は、特に若い世代の方々は、「個の時代」、「ミーイズム(自分の幸福のみに関心を示し、社会や他人には関心を持たない考え方)」と云われ、「群れる」事への嫌悪感もある様にも思ったりもしております。

私が思うには、豊かな人生を送るには、さまざまな世代の方々の異なった生業の事やさまざまな環境で育ったお話をお聞きし、親睦を図ること、その中での「気付き」が大切だと思っております。

また色々な経験を通じて楽しんだことが、私は一番の効用であり効果だと思っております。

私も若干41歳で入会させて頂き、長い間多くの諸先輩方にお教え頂いたことが、今は大きな財産であります。

今後も「豊かな人生」を送れるように精進してゆきたいと思っております。

「歳月は、人を待たず！」と云う言葉がありますが、今後も時間を大切に、毎日を過ごしてゆきたいと願っています。

本日は、貴重な時間をたわいもないお話をお聞き頂き、誠にありがとうございました。

ウォーキング&日本酒同好会
4月20日(日) 「西宮の宮水の郷と酒蔵巡りウォーク」



ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

= 言動はこれに照らしてから =

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか